

DISCUSSION PAPER SERIES

2020-02

高崎市におけるベトナムからの技能実習生および
インバウンド観光に関する住民の考えに対する実態調査

丸山 奈穂

March 31, 2021

Discussion Papers can be downloaded:

<http://www1.tcue.ac.jp/home1/c-gakkai/dp/dp20-02>

高崎市におけるベトナムからの技能実習生および インバウンド観光に関する住民の考えに対する実態調査

高崎経済大学地域政策学部観光政策学科
丸山 奈穂

1. 序論

グローバリゼーションの加速や移民政策の転換に伴い、日本国内の外国人住民数は増加し、2019年には過去最高となった（岡田 2020）。特に地方における増加率が大きい。高崎市も例外ではない。外国人住民の増加は、VFR（友人・親族訪問）観光を拡大させ、地域へのインバウンド観光客誘致を促す可能性がある一方で、地域内での文化的な違いによる摩擦が起きれば住民同士の関係性が排他的なものになり、日本人住民がインバウンド観光に対して快く思わない可能性も考えられる。本研究では、高崎市の日本人住民を対象に、他民族、特に近年増加しているベトナム人技能実習生への態度やインバウンド誘客に対する考えを探ることを目的とした。特に、現在のコロナ禍において民族関係やインバウンド観光に関する住民の考えは転換期にあるとも考えられるため、今後の研究につなげるための基礎的知見を得ることを目的とした。

2. 先行研究

1990年代から加速した「グローバリゼーション」の動きは2010年代後半に入っても拡大している。ヒト、モノ、資本、情報が国や地域の枠組みを越えて移動することにより、地域の経済や文化の活性化を促す一方で、グローバリゼーションに対応している地域とそうでない地域との格差を生むことも指摘されている（畑中 2015）。

グローバリゼーションの特徴として、国際移民の増加が挙げられる。小山（2018）によると、世界全体では1990年には1億5300万人だった移民数が、2017年にはその約1.7倍である2億5800万人に増加した。日本国内でも、2018年末における在留外国人数は27万1093人となり、前年末に比べ6.6%の増加した（法務省 2019）。加えて、2018年11月2日に入国管理法が法改正され（2019年4月施行）、在留外国人数が増加することが見込まれた。実際、2020年1月1日の外国人人口は287万人、増加数20万人、増加率7.48%であり、いずれも過去最高を記録している（岡田 2020）。現在、日本の総人口に占める外国人の割合は2.3%となっている*。また、東京での増加率が低いのに対し、地方での増加率が急上昇していることも特徴として挙げられる。これは、留学生の減少と特定技能者の増加によるものと分析されている。

高崎市も例外ではなく、近年、外国人住民が増加傾向にある。令和元年12月時点の外国人住民登録者数は5,819名で、過去3年連続で増加している（群馬県 2020）。特にベトナム

ムからの技能実習生が対前年比で大きく伸びている。

移民の増加が地域にもたらす影響の一つにインバウンド観光客の増加がある (Seetaram 2012)。一度移住をすると、祖国の親族や友人との行き来が途絶えがちだった以前とは違い、情報および交通網が発達した現在では、移民の移住後の祖国への里帰りと共に、祖国の親族や友人が移民を訪問する旅行 (Visiting Friends and Relatives: VFR 観光) が活性化する可能性がある。例えば、Dwer 他 (2014) は、オーストラリアにおいて 10%の移民の増加が 6.6%のインバウンド観光者の増加につながったことを明らかにした。このことから移民や外国人住民の増加は、VFR 観光を介して、地域へのインバウンド誘客および観光振興に貢献することが考えられる。

一方で、移民の増加は地域内での摩擦を引き起こし、外国人住民が社会から排除される傾向も国内外で長く続いている (濱田 2010)。人は経済的な面だけではなく、文化、価値観、宗教といった多面的性を持つため、経済や企業に比べて、グローバル化の進展度が低いとされている (内閣府 2005)。事実、過去の研究では、外国人住民の比率が高い地域においては日常的に異文化交流があるにも関わらず、日本人住民の他民族に対する態度は必ずしも寛容的ではないことが明らかになった (Maruyama 他、2017)。もし地域内で日本人住民と外国人住民の関係が前向きなものでない場合、日本人住民の外国人住民に対する考えがインバウンド観光客への態度にも反映され、インバウンド観光客誘致に対して反対する住民が増えることも考えられる。

しかし、日本人住民と外国人住民の関係が (VFR 観光を含む) 地域へのインバウンド誘客に対する考えに与える影響に関しては、明らかになっていない。地域住民の観光に対する賛成、反対などの考えやその理由を探ることは、地域の観光事業を持続可能なものにするために必要不可欠だと考えられている (Cole 2006)。特に 2020 年初頭から始まった世界的なパンデミック (コロナウイルス感染症) によって、世界中で排他的な考えを持つ人が増え、アジア人差別を含むヘイトクライムが増加する半面、コロナ収束後のインバウンド観光の復活に期待を持つ住民や観光業者も少なくないと考えられ、今後の観光地の在り方について模索する必要がある。

そこで本研究では、高崎市の日本人住民に焦点をあて、彼らの外国人住民、特に現在増加傾向にあるベトナム人技能実習生との関係性と、インバウンド観光への考えに関する実態調査を行った。高崎市在住の日本人住民対象に、キーパーソンへの聞き取り調査に加えてアンケート調査を実施し、コロナ感染症収束後の民族関係とインバウンド観光誘致の基礎的知見を得ることを目的とした。

3. 研究方法

本研究は 2 段階において行われた。第一段階は 2019 年 11 月～12 月に聞き取り調査を実施した。高崎市在住者 12 名から市内における技能実習生の増加に関する考えを聞き取った。第 2 段階として、戸別訪問によるアンケート調査を 2020 年 3 月に実施する予定であったが、

コロナウイルス感染症拡大が顕著になってきたため、アンケート調査を断念し、新たにコロナ後の観光地の在り方を見据えた文献調査を実施した。聞き取り調査と文献調査から得た知見をもとに2021年3月にオンラインパネルを使った調査を高崎市在住者50名対象に実施した。

オンライン調査で利用したアンケート票は、回答者の属性および市内のベトナム人技能実習生との交流の有無に加えて、日本人住民のベトナム人住民に対する印象を図るためにEthnic Attitude Scale (Osgood, Suci, and Tannenbaum 1957)を使用した。この尺度は、観光研究でも長く使われている尺度である(Amir & Ben-Ari 1985; Anastasopoulos 1992; Maruyama & Woosnam 2015)。本研究では、この尺度21アイテムが選択された。回答者はそれぞれの質問に関して7段階のリッカートスケールで回答をした。また、インバウンド観光への期待水準および知覚水準を図るため、Ko and Steward (10)のTourism Positive/Negative Impacts Scaleから15アイテムを適用し、聞き取り調査の結果に応じて修正し使用した。これらのアイテムは、観光による経済への好影響、文化社会への好影響、環境への好影響、経済への悪影響、文化社会への悪影響、環境への悪影響に関する質問を含む。またコロナ収束後のベトナムからのインバウンド観光への期待に関する質問も含まれた。回答者はそれぞれの質問に関して5段階のリッカートスケールで回答をした。

4. 研究結果

本研究におけるアンケート参加者は、女性30名男性20名の合計50名だった。年齢は20代から70代、居住地は高崎だが生まれた場所が市外である回答者は27名、高崎在住年数は平均約31年だった(表1)。学歴は高校または4年生大学卒が36名だった。

普段の生活の中でベトナム人技能実習生との交流があるかどうかに対しては、78%(N=39)の回答者が全く交流がないと答えており、また高崎市に技能実習生が増えたと思うかに対しては72%(N=36)が「いいえ」と答えている(表2)。

ベトナム人に対する感じ方としては、7段階(全く思わない～大いにそう思う)の平均値は最大4.2、最小3.5であった。また最頻値がすべての項目において4(どちらでもない)であり、すべての項目で半数以上の回答者が4を選んだ(表3)。

インバウンド観光が地域にもたらす影響に関しても、5段階の平均値は3(「どちらでもない」)前後に集中しており、最頻値も一項目を除いて、すべて3であり半数以上の回答者が3を選択している(表4)。

最後に、コロナウイルス感染症が収束後、ベトナム人技能実習生の家族や友人に高崎市に観光に来てほしいかという質問に関しての回答平均値は2.86で、最頻値は33(N=22)だった。

年齢	平均	46.5 才
	最年少	20 才
	最年長	70 才
生まれた場所	高崎市	23 名
	高崎市以外の群馬県内	13 名
	群馬県以外	13 名
	その他	1 名
高崎市在住年数	平均	30.86 年
	最小年数	1 年
	最大年数	70 年
年収	¥2,000,000 以下	19 名
	¥2,000,001～¥4,000,000	10 名
	¥4,000,001～¥6,000,000	9 名
	¥6,000,001～¥8,000,000	4 名
	¥8,000,000 以上	8 名

ベトナムからの技能実習生との交流 頻度	回答数	%
1 全く交流がない	39	78.0
2 買い物途中等に見かける程度	10	20.0
3 年に1～2回の交流	0	0.0
4 月に1～2回の交流	1	2.0
5 週に1～2回の交流	0	0.0
6 週に3回以上の交流	0	0.0
高崎に技能実習生が増えたと思うか	回答数	%
1 はい	14	28.0
2 いいえ	36	72.0

(表2)

5. 考察

本研究では、高崎市の日本人住民に焦点をあて、彼らの外国人住民との関係性と、インバウンド観光への考えに関する考えを探った。50名からの回答からいくつかの知見を得ることができた。第一に、データ上ではベトナムからの移民（技能実習生）が増えていることを示しているものの、住民が生活の中で増えていると感じたり、実際に交流が増えたりということはほとんどないことが明らかになった。また、日本人住民のベトナム人に対するイメージに関する調査では、すべての項目において半数以上の回答者が「どちらでもな

い」という答えを選択しており、ベトナム人実習生やベトナム民族に対して特別な印象を持っていないことが分かった。これはコロナ禍において人との接触を減らしていることに原因があるとも考えられるが、異文化間の理解を促すうえで実際の交流が有効だと先行研究（Allport 1954）では明らかになっている。このことから、今後高崎市を持続可能なインバウンド観光を促進する場合には、まず日本人住民とベトナム人住民の交流を促すことが大切だと言えよう。

次に、高崎市住民のインバウンド観光に関する考えにおいては、一つを除くすべての項目でやはり最頻値が「どちらでもない」であり、高崎市をインバウンド観光地として考えている住民が少ないことが伺える。同じ県内にある草津温泉には多くの外国人観光客が訪れているものの、高崎市にもインバウンド観光客を呼びたいという要望は現時点では強くないといえよう。ただし、地域の経済的発展（雇用の創出、税収の増加）や国際化に期待するスコアは比較的高く、インバウンド観光への可能性を見だしていることも考えられる。一方で、町の混雑や偏った雇用の増加を心配するスコアも同様に比較的高く出ており、これらの不安を払しょくすることは、観光客誘致に当たって住民の協力を得るために不可欠であると言えよう。また、全体で最も高いスコアは、インバウンド観光客増加に伴う感染症拡大であり、これに関しては特定の民族に関わらず、現時点のインバウンド観光に対して最も不安になる原因だと考えられる。コロナ収束後のベトナムからのVFR観光に対する期待は2.84と比較的低く、ベトナム人実習生との交流の少なさ、感染症対策の面から、今の状況としては前向きに考えられる状況にないことが考えられる。

本研究では、本研究では、高崎市の日本人住民に焦点をあて、彼らの外国人住民との関係性と、インバウンド観光への考えに関する考えを探ったが、全体として特定の民族に対する態度とインバウンド観光への考え共に、賛成もしくは反対の意見は見られず、あまり現実的にとらえられていない実態が明らかになった。今後、調査人数を増やす、地域を広げるなどして、さらに知見を得ることで、コロナ収束後改めて増加することが考えられる移民とインバウンド観光の関係について探ることで、持続可能なインバウンド観光地の在り方に関する理解が進むと言えよう。

*2020年以降はコロナ感染症拡大の影響で減少が見込まれている（岡田 2020）。

【謝辞】 本稿は、高崎経済大学 2019 年度研究奨励費の助成を受けた研究成果の一部である。

引用文献

岡田 豊 （2020） 2019 年の外国人人口は過去最高 みずほインサイト
ト <https://www.mizuho-ri.co.jp/publication/research/pdf/insight/pl200909.pdf>
df （2021年3月2日参照）

外務省 (2019) 在留外国人統計

http://www.moj.go.jp/isa/policies/statistics/toukei_ichiran_touroku.html

(2020年3月1日参照)

群馬県 (2020) 令和元年12月末時点の外国人住民数の状況

https://www.pref.gunma.jp/04/c15g_00143.html (2021年3月2日参照)

小山晶子. (2018). 児玉奈々著 『多様性と向き合うカナダの学校— 移民社会が目指す教育』. *国際教育*, 24, 68-71.

内閣府 (2005) グローバル化ワーキング・グループ報告書 https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/minutes/2005/0419/item11_4.pdf

(2020年3月3日参照)

畑中邦道. (2015). 価値を発信する地域は、世界にルールを強制するか?. *国際経営フォーラム*, (25). P. 65-99

濱田国佑. (2010). 外国人集住地域における日本人住民の排他性/寛容性とその規定要因. *日本都市社会学会年報*, 2010(28), 101-115.

Allport, G. W. (1954). *The Nature of Prejudice* Cambridge, MA Addison Wesley

Amir, Y., and Ben-Ari, R. (1985). International Tourism, Ethnic Contact, and Attitude Change. *Journal of Social Issues*, 41(3), 105-115.

Anastasopoulos, P. G. (1992) and attitude change: Greek tourists visiting Turkey. *Annals of Tourism Research*, 19(4), 629-642.

Dwyer, L., Seetaram, N., Forsyth, P., & King, B. (2014). Is the migration-tourism relationship only about VFR?. *Annals of tourism research*, 46, 130-143.

Maruyama, N., & Woosnam, K. M. (2015). Residents' ethnic attitudes and support for ethnic neighborhood tourism: The case of a Brazilian town in Japan. *Tourism Management*, 50, 225-237

Maruyama, N., Woosnam, K. M., & Boley, B. B. (2017). Residents' attitudes toward ethnic neighborhood tourism (ENT): perspectives of ethnicity and empowerment. *Tourism Geographies*, 19(2), 265-286.

Seetaram, N. (2012). Immigration and international inbound tourism: Empirical evidence from Australia. *Tourism Management*, 33(6), 1535-1543.

ベトナム人に対する感じ方 (表3)

平均値

7段階中最頻値(回答者数)

温かみがある	4.04	4 (31)
魅力的	3.84	4 (32)
現代的	3.62	4 (29)
優しい	4	4 (31)
良い	3.86	4 (33)
謙虚 (けんきょ)	3.92	4 (31)
リラックスした	3.94	4 (36)
誠実	3.96	4 (32)
友好的	4.1	4 (33)
力強い	4.14	4 (32)
柔順 (じゅうじゅん)	3.98	4 (37)
信頼できる	3.8	4 (35)
知的	3.9	4 (36)
勤勉 (きんべん)	4.26	4 (27)
自分のよう	3.5	4 (30)
教養がある	3.84	4 (42)
清潔	3.88	4 (42)
男女、人種差別をしない	4.04	4 (37)
楽観的	4.08	4 (39)
丁寧	3.98	4 (35)
道徳的	3.76	4 (36)

インバウンド観光事業が地域にもたらす影響（表4）

	平均値	5段階中最頻値 (回答者数)
地域の経済が発展する	3.36	3, 4 (22)
雇用が増える	3.1	3 (27)
収入や生活水準が向上する	2.84	3 (36)
地域全体の税収が改善される	3.02	3 (34)
歴史的および文化的な展示への需要が高まる	2.96	3 (33)
地域が国際的になる	3.28	3 (25)
地域の防犯や防災の質が向上する	2.76	3 (32)
環境が保全され、地域の外観がよくなる	2.82	3 (30)
公共施設（舗装道路、交通網、市民センター）が改善される	2.92	3 (30)
町が混雑する	3.26	3 (28)
町の少数の人々にしかメリットがない	3.28	3 (31)
生活費が高くなる	3	3 (34)
日本人住民の仕事が減る	3.12	3 (30)
犯罪が増える	3.34	3 (26)
感染症拡大の不安がある	3.62	3 (20)

コロナ収束後のインバウンド観光（表5）

	平均値	最頻値
ベトナムから技能実習生の家族・友人に高崎市を訪問してほしい	2.86	3 (22)

高崎経済大学地域政策学会

370-0801 群馬県高崎市上並榎町1300

027-344-6244

c-gakkai@tcue.ac.jp

<http://www1.tcue.ac.jp/home1/c-gakkai/dp/dp20-02>